



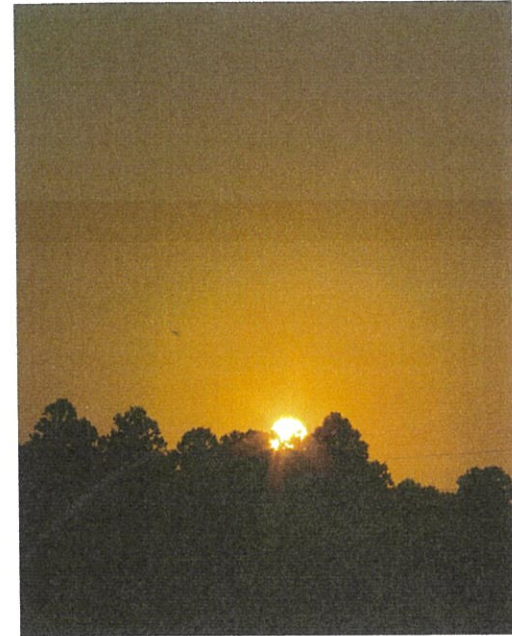
こぼれ話を拾う

八日市場・松山戦争
140年忌慰霊祭記念

諸生派の悲劇を知ってから40年近く、140年忌をひかえおぼろげながら空白が埋まろうとしている。（依知川雅一）

悲願だった藩士の墓の脱走塚移転も叶った。まだまだの感はあるが、これからもこぼれ話を拾い続ける。（加瀬俊雄）

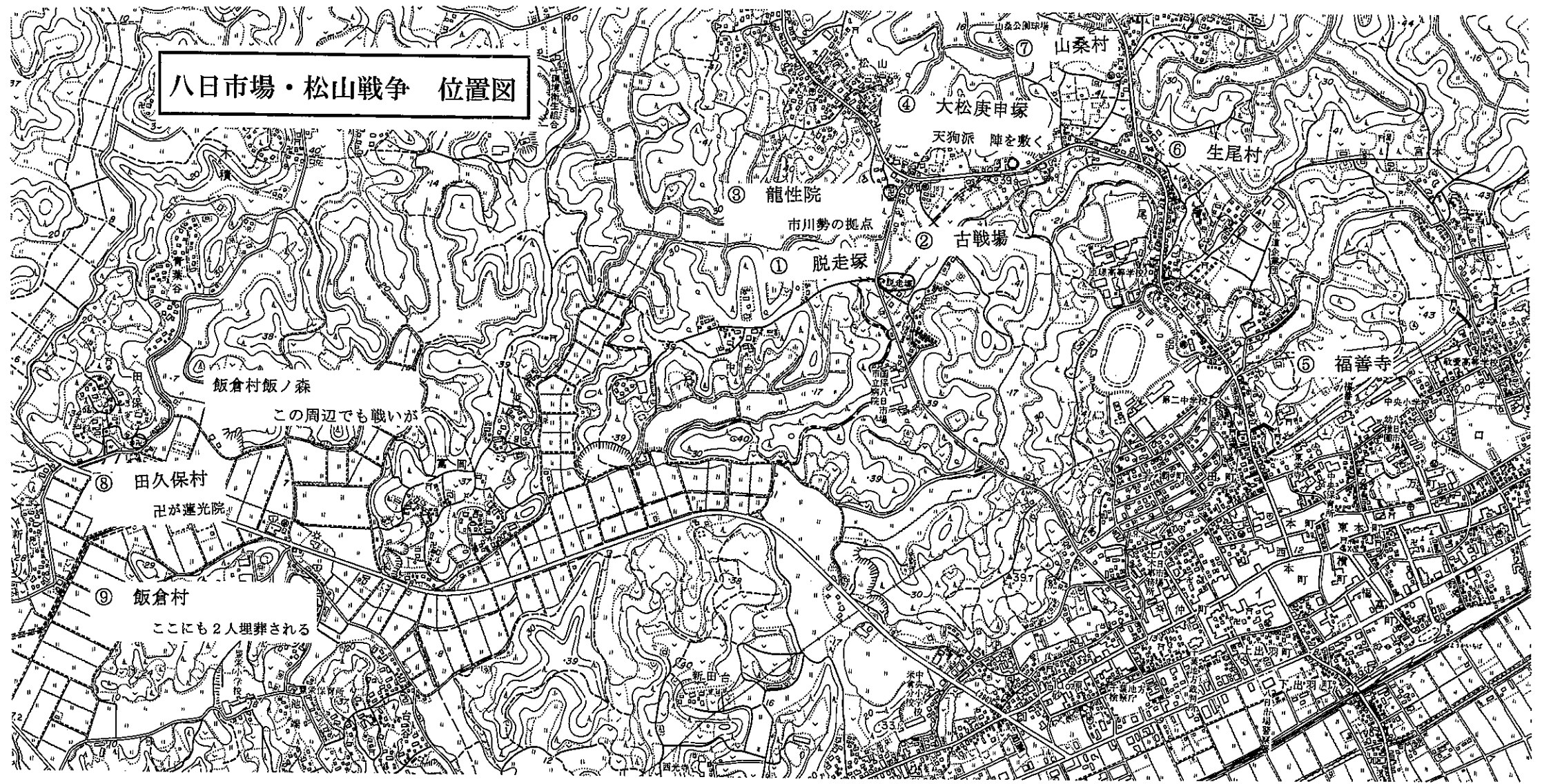
八日市場・松山戦争の話に、若い頃から関心があった。そのことを140年忌慰霊祭で伝えることができうれしい限りだ。（椎名浩）



諸生派市川勢は夕陽の彼方に・・・

平成20年10月6日 発行

八日市場・松山戦争 位置図



⑦ 山桑村
④ 大松庚申塚
天狗派 陣を敷く
⑥ 生尾村

③ 龍性院
市川勢の拠点
① 脱走塚
② 古戦場

飯倉村飯ノ森

この周辺でも戦いが

⑧ 田久保村
正が蓮光院

⑨ 飯倉村
ここにも2人埋葬される

⑤ 福善寺

目次

- はじめに
- 1 百年祭から四〇年
 - 2 八日市場・松山戦争のあらまし
東京めざす市川勢
戦鬪のようす
追討軍の探索
 - 3 藩士の遺跡を守った人たち
明治二年の供養塔
二十一回忌法養
記録にあらわれた戦争
朝比奈智泉による建碑
昭和三十五年文化財に指定
 - 4 こぼれ話を拾う
鈴木欽(欣)一郎の墓
藩士の墓を移し
飯倉での戦死者
塚原萬治郎のこと
銚子の藩士の墓
その他の話
あとがき

はじめに

平成二十年十月六日、「水戸藩国事殉難者慰霊祭」が挙行される。

明治元年（一八六八）十月六日（太陽暦では、十一月十九日）の水戸藩天狗派・諸生派両党の「八日市場・松山戦争」における諸生派戦死者の一四〇年忌法要である。

昭和四十一年（一九六六）十月十四日、「脱走塚百年祭」が挙行され、翌年五月に文献記録として『脱走塚百年記念 松山戦争集録』が「百年祭



松山戦争集録

執行協賛会」によつて刊行された。それから四〇年、協賛会員として名を連ねた。

十数名のほとんどが鬼籍に入られた。歲月の重みである。

私たち地域の歴史に関心を持つ者も、その後「八日市場・松山戦争」関連の資料収集に努めてきた。しかし、さしたる成果が得られず、戦死者への手向けと先人のご労苦に感謝する気持ちを込めて小冊子をまとめしてみた。

1 百年祭から四〇年

昭和四十九年、旧八日市場市は「市制施行二〇周年」を記念して、市史編さん事業を開始した。同四十一年の脱走塚百年祭の協賛会員の中にもこの事業に参画した者がいた。

事業開始から数年したある日、当時の布施章市長が水戸市長を尊敬訪問したいので、水戸市と八日市場市の歴史的なつながりを調べ

るように、と私(依知川)に指示した。

布施市長は、明治元年の「八日市場・松山戦争」のこと、元禄九年(一六九五)正月に水戸光圀が江戸の水戸藩邸から水戸への帰路、八日市場周辺の寺社を参詣したことなどを話題に水戸市に出向いた。

昭和五十八年夏、和田祐之介水戸市長が八日市場市を訪れ、初めて脱走塚にお参りした。これと前後して水戸市議団の脱走塚墓参もあり、また水戸市から「水戸藩諸生派名簿」の提供もあり『八日市場市史』の中で「八日市場・松山戦争」の記述の大きいに役立った。

和田市長の墓参は、八日市場市民にとって「八日市場・松山戦争」や「脱走塚」を見直すきっかけになっただろう。

平成十八年夏、常陽藝文センターの取材を受け『常陽藝文』同年十二月号の特集記事・戊辰戦争「水戸藩と近隣諸藩の動き」に、「八

日市場・松山戦争」が掲載された。その中で

私は「中台地区をはじめとする八日市場地域の人たちが、この戦いで戦死者を哀れみ悼む心を強く持ち続けたこと」を指摘した。

昨年八月、匝瑳市立八日市場図書館で茨城新聞グループによる写真展「戊辰戦争と水戸藩市川勢の軌跡」が開催された。

初日に茨城プレスセンター社長市村真一氏による講話があり、関心を持つ者の中には市川勢に関する新たな話題を提供する者もあった。「この写真展が八日市場・松山戦争を見直すきっかけになった」との市民の声も届いた。



写真展で市川勢に関心集まる

今回の慰霊祭は、匝瑳市にとっても史跡・脱走塚を再認識する絶好の機会となろう。

2 八日市場・松山戦争あらまし

東京めざす市川勢 市村氏の講話資料によると、諸生派市川勢約80人は東京をめざし八日市場で解散したが、水戸藩追討軍に追いつかれ、やむなく戦闘になったとある。

十月六日午前十時ごろ福善寺【地図⑤】に着、ここで解散したが、最後まで戦い抜こうと決意した30名ほどが中台村【地図②】に向かった。

福善寺 真言宗智山派の寺院。南北朝時代の開基とする古刹。明治元年の八日市場・松山戦争では市川勢が立ち寄り、追討軍が探索の際に現在小学校体育館の建つ所であった山門に火をかけ焼かされたという。文久二年から三年(一八六二〜三)にかけて報国救民活動とされる「真忠組」の屯所が置かれたこともある。立ち寄ったのは、近く

で剣術道場を開いていた大木佐内の手引があっ

たかもしれない。佐内は大正十四年(一九二五)に亡くなり、翌年門下生有志により顕彰碑が本堂に向かう参道に建てられた。

戦闘のようす 市村氏の著書『市川勢の軌跡』の「八日市場の戦い」に詳しく紹介されているので、それを参照されたい。

ここでは、地図によって位置関係を確認しておこう。福善寺から山づたいに村役人の案内で主戦場となった中台村に着き、戦いが始まったのが午前十一時頃とされる。

市川勢は脱走塚【地図①】や龍性院周辺【地図③】に陣を敷き、追討軍は大松庚申塚【地図②】周辺に陣を構えたという。戦いは二時間余り、午後一時頃には終結した。

追討軍の探索 市村氏によると、最後の地となった八日市場まで行動をとにしたのは約80人。そのうち41人が戦死・焼死、10人がのちに

逮捕処刑され、30人が八日市場で解散したあと、生き延びたものと考えられる。
とある。

追討軍による市川勢の探索は、戦いが終わるとすぐに開始されたようで、主戦場周辺の生尾（およう）村【地図⑥】や山桑村【地図⑦】などでも言い伝えを聞くことができた。採話した（椎名は）語る。

まだ日が高い時刻だったが、生尾村の江波戸姓の農家にさむらい風の男がたずねて来て、「かくまうてほしい」と願いだした。農家の主人はともかくまうことはできないと断り、家から裏道を抜けられると逃げ道を教えて返したという。

この者は、福善寺で解散したあと主戦場の中台村に向かう途中で、市川勢とは分かれて助けを求めたのだろう。

中台村の隣りの山桑村では、稲刈りをしていた農民が西の方角の竹山で竹に当たる鉄砲玉のような音を聞

いておどろいているとさむらい風の者があらわれ、逃げ道をたずねたという。

山桑村は主戦場の北東に位置し、数百メートルの所に谷津田があるのでその周辺でのことだろう。

少しはなれた八辺（やつべ）村でも大砲の弾が飛び交うような大きな音が聞こえたので中台村まで見に来た村びとがあり、大木の影にかくれて戦いのようすを眺めていたという。

この村に住む刀鍛冶をしていた人が天狗党に連れ去られ、死後に石岡の寺に埋葬されたという。

石岡（茨城県石岡市）からの調査依頼を受け（依知川が）昭和四〇年代に八辺地区で聞き取りをしたら、その人が存在したことが確認できた。

これらの他にも戦いのすんだ十月六日夕刻から数日間、追討軍・天狗派による近隣村むらでのきびしい探索の話をいくつか聞くことができた。

3 藩士の遺跡を守った人たち

明治二年の 戦いの後、最初に建てられたの
供養塔 供養塔は戦いの翌年（明治二年）五月のものとされる。

大正十五年（一九二六）十一月十日建立の「水戸藩志士弔魂碑」に、宮谷県柴山県令が松山・

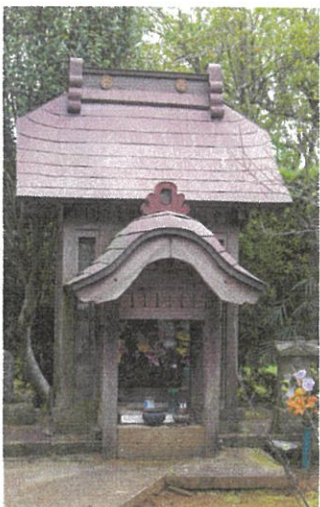
中台の村役人



昭和40年頃の脱走塚。右手の樺は、市川勢が隠れて戦ったものといい、供養碑左の桜は今ないが、百年桜とよばれ戦いを見守ったという。

に命じて戦死者の遺体を埋葬したとある。

遺体を西方寺跡墓地に埋葬するなどの戦後処理は中台村の人たちによってなされたのだろう。供養塔が立てられたとする明治二年五月は戊申戦争が終結した時である。新政府側に立つ柴山県令にとって、幕府軍に加わった諸生派市川勢の供養を村役人に命じたことと政府に報告したかったことで区切りにしたかったのかも知れない。墓石は高さ60センチほどで、正面に「戦死二十五人墓」、右側面に「明治元年十月六日」と刻まれている。



供養塔は、現在では覆屋の中にあり、手厚く守られている。

二十一回忌 明治二年五月に供養塔を立法 要 了のち、中台村の人たちは、折々にお参りしたことだろう。二十一回忌法要が営まれたことが明治二十二年（一八八九）五月三十日付の「東海日報」という地方紙に報じられた。

今はただ二十五人の塚の残るのみなるが、本年はあたたかも二十一回忌にあたるをもつて同町見徳寺、福善寺二師の唱導にて、去る二十六日、右二十五人塚において法会を営み、群衆の者へは紅白の餅をおびただしく投与し広き古戦場も当日は非常のにぎわいにありしという

脱走塚の場所が西方寺跡で遺体埋葬時は見徳寺が管理していたこと、福善寺に市川勢が立ち寄ったことなどの理由で二住職が導師を務めたのだろう。

今では「脱走塚」と呼ばれている市川勢の墓が「二十五人塚」と書かれていることにも

鳥目すべきかもしれない。

記録にあら 「八日市場・松山戦争」が文献 われた戦争 記録に初めてあらわれるのが、大正十年（一九二一）に刊行された『匝瑳郡誌』である。戦争から五〇年余り後のことである。これに『松山戦争』とあることからこれ以降この呼び方が定着したのだろう。本文中に「反対派を純真隊又は書生派と称する」とあるのは当時の官軍・賊軍の延長戦上のとらえ方なのだろう。

脱走塚に葬られたとされる二十五人については『匝瑳郡誌』の中で、「書生派の記録」「天狗派の記録」から氏名をあげてはいるものの特定にはいたらなかった。

同十五年（一九二六）に立てられた吊魂碑の裏面にも「戦没二十五人氏名」が刻まれている、水戸藩関係資料との照合が今後必要となる。

朝比奈知泉 大正十五年（一九二六）十一

による建碑

月十日、脱走塚に朝比奈知泉

撰文による碑が立てられた。戦いから五十八年目のことである。

碑文によると、朝比奈ら兄弟は、前年匝瑳村中台の大木佐助翁の案内で古戦場を訪ねた。そして寄附を得て碑を立てたとある。

碑文から戦後処理のようすがわずかながら知られ、柴山知事が松山・中台両村の村役人に命じて遺骸を葬ったとされる。松山村の関係者は下山九兵衛、古閑佐兵衛、関忠兵衛、中台村では大木三右衛門、山崎八郎兵衛、中



脱走塚に建つ吊魂碑

台仁右衛門らであったという。

碑は2メートル60センチに及ぶ堂々たるもので、正面には「吊英魂」と篆刻され、朝比奈知泉の撰文が刻まれている。裏面に発起者大木佐助をはじめとする寄附者70余名が刻まれ、多くの賛同者があったことを伝える。

その左側に昭和四十一年に大中こう氏により建てられた百年祭記念の碑が立つ。

朝比奈の撰文中に「香火絶えず、今日に至る」とあるように、松山・中台両村の人たちが脱走塚を守ってきたのである。

昭和三十五年 昭和二十九年に八日市場文化財に指定 市が誕生。中台区の山崎

滝三氏らの尽力で、脱走塚が史跡として市文化財に指定された。

山崎氏は合併前の匝瑳村長や市文化財審議会委員などを歴任し、脱走塚を守る人びとの中で功労者にあげられるだろう。

4 こぼれ話を拾う

鈴木鈞一郎の墓 水戸藩市川勢の大番頭鈴木鈞（欣）一郎は、「八日市場・松山戦争」で東谷（ひがしや）村の旅籠「吾妻屋」に潜伏していたところを密告され、天狗派に捕らえられ村内の安養寺で斬首されたという。

旅籠の主人は大木半兵衛といい、剣術をやり市川三左衛門をかくまった大木佐内の弟子だったという。旅籠は銚子から八日市場・福禅寺への道沿いにあり、鈴木は度重なる戦い



鈴木の供養碑

いで手傷でも負っていたのか一行とは別れ、大木佐内の手引きで知り合いの旅籠にかくまわれたのだろう。

天狗派は、十月六日から四日間八日市場村に居残り市川勢の探索にやっきになっていた。その探索中、旅籠近くの誰かが密告したのだろう捕縛された。

処刑場に連行される間際「七代、たたってやる！」と叫んだという。無念な想いに余りある。鈴木の命日は十月七日とされる。

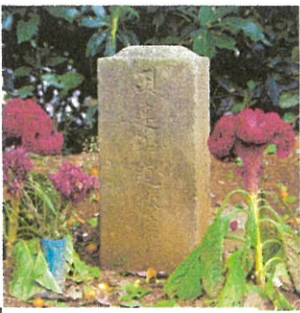
旅籠を営んでいた大木家では、鈴木 of 遺体が葬られた安養寺境内墓地に平成元年供養塔を立てた。明治十年ごろの八日市場村見徳寺過去帳に鈴木の名は見られないが、首を持ち帰った天狗派関係に記録にはその名がある。

今回の調査で、鈴木鈞一郎と大木家のかかりが明らかにされた。大木家では長い間、語られることがなかったが話である。

藩士の墓を移す 今回の慰霊祭に合わせ一

四〇年ぶりに脱走塚に移された市川勢藩士の墓がある。

主戦場の中台から3キロほど離れた田久保【地図⑧】蓮光院境内墓地に藩士が葬られている。墓石の正面に「連山道快信士」、左側面に「明治元年十月六日」と刻まれる。台石部分にこの造立に関わった田久保村6名、近隣の木積村（青葉谷）2名、富岡村2名、新村3名の13名の名前が確認でき、欠損部分もあるのでこれより多くの村びとが関係したのだろう。



蓮光院にあった墓

残念なことにごの手厚く埋葬された人が誰なのか不明であるが、古老が語ったところでは「20代の青年の

武士だった」という。

この墓の移転は、私（加瀬）にとっては永年の念願だった。

加瀬は、語る。

中台村での戦闘が終結し、四方に散った市川勢のうち数名が芝山（山武郡）をめざし負傷者を背負いながら飯倉村飯の森地先にさしかかった。そこで1人がこれ以上逃げられないので首を刎ねてくれと仲間と言った。追う手が近いので友の者は首を刎ね、田久保村の竹やぶに首をかくしそのまま



脱走院に移した水戸藩士の墓

140年ぶりに再会できた

ち去つたという。

そのようなすをながめていた数人の村びとは、いったん死体を隠し、追つ手の探索がやむのを待つて蓮光院に移し、大いちようの木元に埋葬し墓を立てたという。それから、盆や彼岸に村びとのお参りは続いたという。

この墓のことは地域の人びとにしか知られていなかった。昨年の写真展の際に、私(加瀬)が市村氏に伝え、今回の慰霊祭実行委員会の方がたにも現地を見ていただいた。

そして田久保・蓮光院世話人の方がたのご了承が得られ、この藩士は『脱走塚』に眠る市川勢の友と一四〇年ぶりに再会が果たされたのである。

飯倉での戦死者 市村氏によると、

最後の地となつた八日市場まで行動をともししたのは約80人。そのうち41人が戦死、焼死、10人がのちに逮捕処刑され、30人が八日市場で解散したあと、生

き延びたものと考えられる。

とされる。

田久保村に埋葬された藩士もこの41人中に含まれるだろうし、隣村飯倉村不動院(當時は廃寺同然であった)墓地【地図⑨】にも2名が埋葬されているというが、墓石はない。

『松山戦争集録』には、

敗兵は富岡村を越え飯倉村字飯ノ森というところに13人行きたおれ死ければ、仲間の人首は刎ね絵持ち行き、死骸ばかり残りけり―

と記録される。これらの村むらは主戦場の中台村から西の方向にあり、それはまさに東京への道、生き延びるための道でもあった。

切られ様 主戦場の中台村から南に数キロほど離れた今泉村(現在の匝瑳市今泉)に、「切られ様」とよばれる諸生派市川勢を葬った場所があつたという。

平成七、八年頃の聞き書きでは、「刀傷をお

つた市川勢が待ち伏せた天狗派と戦い100余名がここで命を落とした」との言い伝えである。遺体は中台村同様に村びとに厚く葬られ、供養碑が建てられそこをお参りする村びともあつたという。

大変残念なことにこの墓所と供養塔は、昭和40年代の耕地整理の際に位置関係が判明しなくなつてしまつたという。

今回の調査でも手を尽くしたがどうとう判らなかつた。(椎名はその場所が確認できないことを残念がり、当時の関係者を何度か訪ねた。「忘れ去られてしまう市川勢藩士がいたまじしい」と今後も調査を続け、何とか形にして残したいと念願している。

この調査の過程で、(加瀬が)負傷した天狗党員の言い伝えを拾うことができた。

八日市場・松山戦争で負傷した天狗党員が今泉の稻生神社近くの森にかくれていて、朝



塚原の墓に当時の

ようすが刻まれる

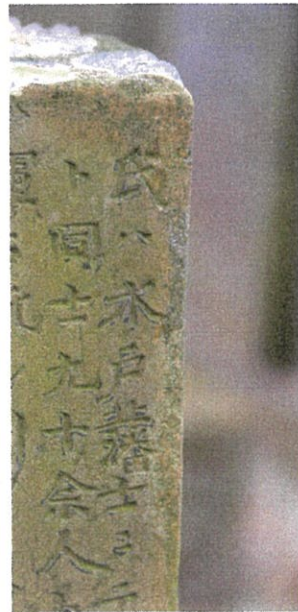
た後に水戸から妻子を呼び寄せ一緒に生活を送つたのだろう。

昼晩と人目をさけて食事を運ぶ女性がいた。その人は、堀川村(現在の匝瑳市堀川)生まれで天狗党に加わつた伊藤栄太郎の姉であつたという。

戦いがすんだものの不安げに助けを乞う者もあつたのである。

塚原萬治郎のこと 八日市場村を最後に生き延びた者が30名ほどあつたというが、つい最近そのひとりの存在が判つた。

その名は「塚原萬治郎」といい、銚子で負傷し吉崎村(現在は匝瑳市)で村びとにかくまわれた。この時31歳であつた。傷が回復し



氏ハ水戸藩士ニテ・・・

塚原は64歳の生涯をこの地で終えた。墓石の裏面に「氏ハ水戸藩士ニテ・・・」と略歴が刻まれ、「同士九十余人」と水戸を脱した後、に銚子で負傷したとあり、貴重な資料となる。

発見した(椎名は)語る。

「一四〇年忌法要が塚原を呼び寄せたと実感する。昨年の写真展で墓近くの知人から教えられ、今回の発見となった」

銚子の藩士の墓 銚子・良福寺の「大森金五郎」の墓参の後、かねて(椎名が)銚子の歴史研究者から得た情報をもとに水戸藩諸生派市

川勢の墓を探した。墓は国道に沿った大宮神社の入り口にあった(写真)。

正面に2名の戒名が刻まれ、右側は「憲照院忠誠報孝居士」で没年は左側面に「明治元辰年十月十二日」とある。左側は「賢光院忠戦死孝居士」没年が「明治元辰年六月五日」と刻まれる。俗名などはわからないという。



彼岸に訪れたが、花が備えられ手厚く守られていた。

その他の話 このほか断片的な話も拾えたが、さらに調査してまとめたいとの3人の意向もあり、ここできちんとおこなうことにする。

あとがき

昨年の写真展「戊辰戦争と水戸藩市川勢の軌跡」がきっかけで、『八日市場・松山戦争』について3人の間で再び関心が高まった。

今年5月から今回の「水戸藩国事殉難者慰霊祭」打ち合わせなどの際、水戸の関係者に諸生派市川勢のことを熱く語りかける加瀬や椎名の姿に感動すら覚えた。

いつもながら仕事の遅い依知川がこの編集にとりかかったのが9月になってからで、短期間のうちにまとめたので欠落した部分もある。「こぼれ話」の中に加えたい話、たとえば八日市場に住み生涯をおえた飛田鋌之助のことや140年忌法要と巡り合わせるかのように新たな話も聞けたが、調査が十分でなかったことなどで掲載を見合わせたものもあった。今後とも3人で出来る限り話を拾い、またの機会にまとめたいと念願している。

平成二十年十月六日

依知川 雅一
加瀬 俊雄
椎名 浩